

月刊島民

中之島

Vol.8 2009 3/1

橋を渡る人の「街事情」マガジン

イツツ・ア・
中之島デザイン



から(笑)。何より、クラシックでいて国立国際美術館など新しいものができるいく街の様子に、相通じる感覚をもったそう。

オリジナルのシャツでも、新しい技術を使いつつ、作るのはあくまで「定番」。先人の思考を活かすことを優先するためだ。「でもデザインうんぬんより、一から十まで全部自分たちでやる。これやね」。ものの作りの現場に身を置いてこそその言葉である。

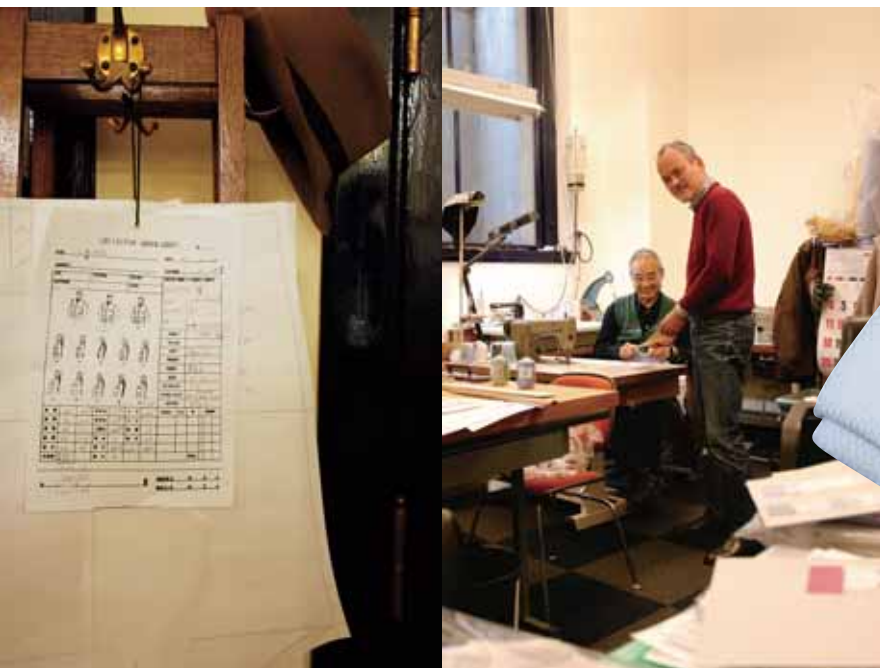


流行にとらわれない、中之島ゆえのデザイン。

デザイナーであり職人であり社長でもある久木元亨さんは、「LES LESTON」流デザインのキーワードを「温故知新」だと語る。「古く普遍的なものが、どうすれば現代に映えるか。それを考えられる環境に身を置くため、4年前に中之島へやって来た。繊維業界とは縁の薄い街だけに、情報が入ってこないのではと心配されたも、「流行に左右されなくなかった

NAKANOSHIMA DESIGN 01

[LES LESTON]のオリジナルシャツ



襟の形、カフスの長さなど、こだわろうと思えばいくらでもこだわられる。レディースのオーダーも可能。

レス
レストン
LES LESTON

ダイビル1階の店舗兼工房では、オリジナルシャツの販売（15,000円〜）とオーダー（30,000円〜）が可能。ちなみに、中之島の島民に似合うシャツのイメージは？「上質な。変に凝らず、良いものを身につけて欲しい」。☎06-6448-8330 10:00AM〜8:00PM 日・祝休



シャツの面白さは「体に一番近いところ」と久木元さん。汗を吸ってくれたり、気合を入れたときは腕まくりしたり、「相棒」のように愛着を持って着て欲しいと語る。



これぞ!!
**中之島
デザイン。**

買って帰ろう

威風堂々たる近代建築や橋の意匠はもちろんのこと、手に取れる「モノ」においても、中之島はグッドデザインの宝庫だ。シャツや靴といったオーダーものから、文房具や食器などの日用品も。どこかシブくて気品ある「中之島デザイン」で勝負する人たちと、その仕事の現場を訪ねることにした。

取材・文／大迫 力 松本 創 溝口さやか 若狭健作(以上本誌)

む人の靴を数多く手がけた経験から。イギリスで技術を学び、イタリアで美しい靴が生まれる風土や感覚を吸収し…とそのキャリアが職人魂を物語る。「表面的なデザインも大切ですが、その人の美意識を映すような一足をお作りしたいですね」とは、まさに求道者の言葉である。



熱田靴店

天満橋駅の南、北大江公園に面したお店は「イタリアのPIAZZA(広場)のようで気に入っている」という絶好のロケーション。来店の際は事前に電話で確認を。靴型製作費(初回のみ)30,000円、婦人靴60,000円〜、紳士靴80,000円〜。☎06-6947-9200 11:00AM〜8:00PM 不定休

美意識にフィットする
若き職人渾身の一足。
履きやすさ、洗練されたデザイン、疲れにくさ…靴へのこだわりは千差万様だ。靴ズレに耐えてかっこえ靴を履くのもいいが、すべてのこだわりを満たすならオーダーメイドしかない。昨年1月、天満橋にオープンした「熱田靴店」では店主であり職人の熱田康二さんと共に、イメージする写真をもとに「つま先をもっとシャープに」「廃番になった昔のイメージ」といった細かいオーダーを形にしていく。「骨格や肉付きは人それぞれ違う。木型だと限界があるの…」と足型を石膏で作るのは、医療メーカーで外反母趾や足の形に悩

NAKANOSHIMA DESIGN 02

「熱田靴店」の オーダーメイド靴

4〜5ヶ月かけて作り上げる一足。何度かお店に足を運び、できあがってくる時間を愉しむのも格別だ。



街の気になるデザイン① シマを彩る動物彫刻探訪記。

下町の商店街にはおばちゃんのアマルプリントが溢れているが、こ中之島でもたくさんさんの動物たちを見かける。古くからのエスタブリッシュエリアに似つかわしく、彫刻という形で鎮座する彼らもまた、街を彩るデザインである。

取材文／松本創(本誌)



1

●その1 荒獅子 vs 羊さん

動物彫刻といえば、まずは難波橋の阿吽の獅子像(1)。作者の天岡均一は、市長からの彫刻制作の依頼に「荒々しい獅子がいい」と即答したという。天王寺動物園に何度もう

通い、ライオンをにらんだかいいあって、「ライオン橋」の通称が定着した。その約10年後、大正末期に建った三井住友銀行大阪本店の壁面上部でもライオンと思しき猛獣が目光らず(2)。すぐ下には雨どい。装飾、威嚇、それに排水という実利面でも役立つヤツなのだ。さらに時代を下れば進化形が現れる。おとし竣工した今橋野村ビル(3)のライオン像(3)は、なんだかやたらとメカニカル。難波橋の獅子がゴジラだとすれば、このキュビズム獅子はメカゴジラだ。

ほかにも土佐堀通沿いには数頭のライオンがいて、中之島は今も昔も「獅子の時代」の様相だが、その対極のビースな像もある。新ダイビルの

羊さんたちだ(4)。四方の角に2頭ずつ仲良く並んで青い空を望むさまは、まこと穏やかで微笑ましい。これがホシマの「装飾動物」である。



●その2 荒鷲 vs 鳩。ポッポ

そもそも建築物を飾る動物彫刻は魔除けの意味があったらしいので、猛々しい動物が選ばれるのは道理である。鳥でいえば鷲だ。取り壊しが迫るダイビルの入口には、少女の足元から飛び立とうとする3羽の鷲がいる(1)。隣で工事が進む新しいダイビルにもそれは引き継がれ、既に姿を現している(2)。

ダイビルとほぼ同年代の大林組旧本社ビルにも、やはり鷲(3)。羽を広げ胸をさらし、「ワシが、ワシが」と自己を誇示するようである。しかし、荒々しい像だけでは世の中が殺伐とする。土佐堀川沿いの遊歩道には平和の象徴、鳩と





時代は変わっても、島民の好みは一貫して紺やグレーの堅い色。「見た目の派手さではなく、質にこだわる方が多いですね」と大西さん。北新地の行き帰りに来店する客も多い。

「10年着られて当たり前」 島民御用達の注文洋服。

「長いこと紅白歌合戦なんて見られませんでした。入社当時を振り返って笑うのは、3代目の大西忠治さん。スーツと言えばオーダーが当たり前の高級品だった時代、正月に帰省する際に着るための新品を届けるのに、大晦日も走り回っていた。中之島周辺にもオーダー専門店が建ち並び、渡辺橋から桜橋交差点のあたりまでに4軒もあったそうだ。明治45年に信濃橋で創業、博労町や江戸堀を経て、戦後すぐに堂島へ店を移した。新聞社などが集まるビジネス街だったこともあり、「四つ橋筋には市電が走っ

NAKANOSHIMA DESIGN 03

「大西洋服店」の スーツ



ていて、店の前に駅があった」という。オーダー専門を貫くの中には、既製品が主流になった今だからこそ思いもある。「数で勝負すれば資本の大きいところが勝つ。職人の手を借りて、一人ひとりに合わせてコツコツと作らないと」。そのこだわりが、「10年着られて当たり前」の洋服を生む。

大西洋服店

東京への転勤後も出張の度に寄ってオーダーしてくれる常客や、親子2代での付き合いも多い。1000種以上の生地から選ぶことのできるオーダーは49,500円～。縫製のパターンによって値段が変わる。☎06-6344-0512 10:00AM～7:00PM(土曜～5:30PM) 日・祝休 <http://www.tailor-oonishi.com/>

NAKANOSHIMA DESIGN 04

「モリタ万年筆店」の オリジナル万年筆



鮮やかなターコイズブルーは男女問わず人気。セーラー社製モリタオリジナル (16,000円) スリム・スリミニ (ともに9,600円)

胸に鮮やかなブルー ビジネスマン必携の一本。

「男の人が多い街やから見えかなと思つて」。終戦後まもなく、北浜に万年筆店をかまえた森田誠一さん。当初は修理が主だったが、パーカーやペリカンといった庶民の憧れの舶来品を並べたところ、土地柄にずばりとはまった。「このへんは金満街でしょ。公文書は万年筆で、と決まっちゃったからね」と、ビジネス島民へ自慢の一本を販売してきた。「昔は必需品でしたが今は嗜好品。若い方でもアナ

ログな魅力にひかれるようです」という息子の誠二さんとともに、親子2代で店頭に立つ。世代の価値観は変わっても、常時1000本以上という品揃えを守ってきたお店は、開業60年を記念しオリジナル商品を発売。「ちょうどモーツァルト生誕250年と一緒だったので」と生誕地ザルツブルグにある大聖堂の屋根根の色を再現した「よそにはない色」で、親子とも納得のいく一本に仕上がった。

モリタ万年筆店

「うちは気軽に試し書きしてもてます」と誠一さんが言う通り、店内は手書きの値札が並ぶ気取らない雰囲気。筆圧や持ち方に合わせたメンテナンスも行っている。☎06-6222-5121 9:00AM～7:00PM(土曜11:00AM～) 日・祝休 www.morita.ne.jp



街の気になるデザイン② たたずむ彫刻島民は 何を語るのか？

中之島周辺には人物をモチーフとする彫刻が数多い。そんな「物言わぬ島民」たちは、行き交う我々に何を語っているのだろうか。取材文／大迫力(本誌)

●座る



「ジル」



「座る婦人像」

まず目につくのが、「座る」彫刻の多さである。まるであぐらづく島民たちに休息を促すかのように、実に悠然と座り物思いに耽っている。中でも淀屋橋北詰にて座る「陽だまりに遊ぶ」さんは、子供連れのレジャー感覚。ビジネスにもこれくらいの余裕を持ちたいものだ。

もう一つ顕著なのが「戯れる」。どれも楽しげで、見ていると肩の力が抜けるリラククス効果がある。日銀大阪支店脇に設置された黄金のポストの上で地球を掲げるかの人々の嬉々



「日銀大阪支店前のポスト」

●戯れる

とした様子はどうか。市役所前の広場で優雅な歩みを見せる「緑の賛歌」のお二人など、デューク更家も真つ青である。そこに「不機嫌な職場」(講談社新書)で語られる悲壮さはなく、チームワークの尊さを表現するようでもある。



「緑の賛歌」



「みどりのリズム」

彫刻があるのは土佐堀川北岸の遊歩道や御堂筋の両側など。前者は大阪市政100周年記念事業の一環として、後者は周辺企業からの寄付を募った「御堂筋彫刻ストリート」という計画のもとに設置されている。「レプリカではなく実物を置いているのが自慢です」と、大阪市情報公開室の橋本勝幸さんは語る。

●太る



「花の天女」



「日溜」

手描きのイラストの風合いを活かすため、手間のかかる活版印刷を行う。色はダイビルのスクラッチタイルをイメージしたゴールド、[大大阪]のイメージカラーであるボルドーの2色。3セット入りで650円。



名建築が縁を結んだ、手作りの風合い。

名品喫茶をうたう喫茶室には、数々の「大阪生まれ」が顔を揃える。リーダーの消しゴム、コクヨのノート：名だたる顔ぶれの中、昨年、新たに生まれたのがこのセットだ。「自分たちでも新しいものを作りたい」と思い立った吉崎かおりさんと井上タツ子さんは、大正7年創業の老舗であるハグルマ封筒に話を持ちかけた。卸売りはしない方針のため、一度目は断られたものの、熱意をもって説得。その縁を取り持ったのが、大阪の誇る名建築・ダイビルだった。スローなコミュニケーションの大切さや、古いものを新しく活かすといったお店のコンセプトを、井上さんはビルの中を案内しながら丁寧に話した。そのダイビルは、今年の夏には取り壊しが決定している。形や色遣いにビルへの愛着が感じられるカードと封筒は、「この形がなくなっても、思い出せるものを」というメッセージでもある。

NAKANOSHIMA DESIGN 05

[喫茶 大大阪]のオリジナルカードセット



大阪名品喫茶 大大阪

厚みのあるしっかりとした味と香りの大大阪ブレンド（400円）と共に、旧き佳き大阪の名品が揃う。セルロイドの万年筆など、なかなか手に入らない逸品も。ダイビルの取り壊しに先立ち、4月11日に閉店が決まっている。☎06-6444-8870 9:30AM～6:00PM 日・祝休

NAKANOSHIMA DESIGN 06

[国立国際美術館]の「影」グラス



ロンググラス（右）とロックグラス（左）はともに1,800円。ケース入りの付箋（上写真右）やクリアファイルにもなっている。

グラスに酒はあるかないか、よく眺めて考えよう。

地下へ下りて行くと、弧を描く壁に浮かぶいくつかの人影。思わず後ろを振り返るが誰もいない。一瞬不思議な感覚にとられるこの絵は、現代美術家の高松次郎が遺したシリーズ作品「影」の一つ。1977年、万博公園に開館した国立国際美術館に設置された大作は、4年前、中之島に移転してきてからも変わらず美術館の顔として来館者を出迎え、ミュージアムショップには、その絵を

デザインしたグラスが並ぶ。「当館の所蔵作品は6300点以上ありますが、常に来館者の目に触れるのは、これとミロの『無垢の笑い』だけ。その意味では象徴的な作品です」とショップ担当者。作者が「二つの物がないぞ」ということを出すためのアリバイです」と語ったように「不在」「や」「虚実」を問う作品。グラスの中身があるのかないのか、酩酊する頭でしばし遊んでみるのもいいか。

国立国際美術館

金属の羽根のような（実際は竹がモチーフらしいが）美術館のオブジェを、デザイン界の大御所・早川良雄氏がロゴマーク化したグッズもあり、Tシャツやマグカップが手頃な島土産になっている。ショップへの入場は無料。☎06-4803-6100 10:00AM～5:00PM（金曜～7:00PM）月曜休



街の気になるデザイン③

もう一度知る中之島線の見方。

島民の足、京阪電車中之島線がいかに新新かつ画期的なデザインコンセプトのもとに誕生したかは、本誌第3号でコッテリ解説したが、「まだ乗ったことがない」「乗ったけど見逃した」という人のために、いま一度おさらいしておこう。中之島線は「コ」を見る！

取材／文／松本創（本誌）

● 車両

3000系、魅惑のムーンフェイス。

新型車両3000系のボディカラーはブルー。水の都の象徴であり、古都ののれんや紺袴をも想起させる。京都と大阪、歴史ある二つの街を結ぶだけに、車両のコンセプトは「風流の今様」。走る姿で花鳥風月を表現する。なかでもデザインの重要な柱に据えたのが「月」。それを表すため随所に円弧を取り入れた。車両先頭のフェイイスは他に比べて、より丸みを帯び、座席の手すりやシートカバー、窓の日よけにも、円弧が散りばめられている。シートに高級車用の素材「エクスセヌ」が使われているのも、島民なら知っておきたいところだ。



● 駅

ひと目で分かる、「コ」はどこ？

駅のデザインは、街路樹や公園の木々を思わせる無垢材と、川面のきらめきを表すガラスで構成。安藤忠雄氏が手掛け



たなにわ橋駅の出入口は水に浮かぶ島を、他の3駅は格子と行灯の光からなる和モダンな空間をイメージした。コンコース壁面はカナダ産レッドシダー（ヒノキの一種）。地下駅に木材を使うという常識破りを実現したのは、不燃加工の技術だ。さらに、ホームの対向壁では各駅の個性を表現。なにわ橋はテラコッタ、大江橋は石、渡辺橋はステンレス、中之島は木。寝過ごしても、どの駅かひと目で分かるというありがたさである。



● 装飾

いたる所に現れる造形美。

誰もが目を留める階段のクネクネ手すりは、その名も「クネクネット」。一つの路線のすべての駅に採用されるのは全国初だ。上る時は取っ手のように、下る時は杖のように、人間工学的にも優れたデザイン。中之島駅の終端部には、地下を掘り進んだシールドマシンのミニチュメント。「まだ西へ行くぞ」という意思表示のようである。渡辺橋駅では、カナダの先住民アイヌイットのオブ

ジェ「イヌクシユク」がお出迎え。カナダ産木材を使用した縁で贈られた、感謝と友情のあかしだそう。





大日本除虫菊 1885年創業 土佐堀通

誰もが知る「金鳥」のシンボルマークは、故事成語の「鶏口となるも牛後となるなかれ」から。業界の先駆者としてトップに立て、との思いが込められており、よく見ると鶏の胸には「上山」と創業者の名が。蚊取り線香を渦巻き型にしたり、早くから広告ポスターを積極的に展開したり、あらゆるデザイン面において先駆的存在の企業。



樋屋製薬 1622年創業 天満橋

♪赤ちゃん夜泣きで困ったな、のCMソングでおなじみの小児薬「樋屋奇応丸」の製造元。創業年を聞けば「大坂夏の陣が終わって数年後ですな」と返ってくる同社の登録商標は、老舗中の老舗らしく、大阪天満宮から特別にいただいた梅鉢の紋。外箱デザインや容器のキャップにあしらわれたマークは、伝統と信用のあかしなのである。



花外楼 1830年代創業 北浜

木戸孝允、大久保利通、板垣退助、伊藤博文ら明治維新の立役者が顔を揃えた「大阪会議」開催の地となった料亭。もとは「加賀伊」という屋号だったが、会議の成功を祝して木戸が新たに命名、筆を執ったのが現在の店名になった。書の原本は店内に額装されているが、看板やギフト商品の箱・包装紙など、すべてにその文字が使われている。

老舗企業のデザイン力。

看板、ロゴ、パッケージ…

島民



神宗 1781年創業 高麗橋

上方の味を代表する塩昆布の老舗は、高級感を演出しつつ、小分けの手間を省くパッケージを業界で初めて導入。そのフタや包装紙の絵は、店が所有する『久留米藩大阪蔵屋敷絵図』より。塩昆布は「蛸の松と久留米藩蔵屋敷」、鯉昆布は「蛸の松のしめ縄飾り付け」、ちりめん山椒は「堂島の米市」と、商品によって風景が異なるのも楽しい。

老舗の強みはデザイン力にあり。そんな視点から大阪発のブランドや商品を紹介する展示会がこのほど、淀屋橋odonaで開かれた。100年以上続く企業が集まる「大阪『NOREN』百年会」の31社が出展。ロゴマークや看板、商品やパッケージ、店舗内装など、老舗ブランドの顔として長年



取材文／松本 創(本誌)

デザインから老舗のセンスを学ぼう。親しまれてきたデザインの成り立ちと、そこに込めたこだわりを披露した。中之島界隈の企業も、もちろん多数参加。会場では本誌のバックナンバーが配布され、島民的にも見逃せない催しとなった。ここに挙げた4つの秀逸

生地との出会いが生んだ「基礎化粧品みたいな服」。たまたま買ったTシャツの着心地があまりにもよかったので、生地の出所をたどると和歌山のメリヤス会社だった。いまではほとんど見られない「吊り編み機」を使っていた。宙に吊られた機械がゆつくりと筒状に糸を編み、でき上がった布は自重で下に落ちてゆく。[Label Shop]のオリジナルウェア「TSUTSU」はこの生地との出会いから生まれた。「糸や布に余分な力をかけていないから

柔らかくて丈夫。筒状なので縫い目もない。基礎化粧品みたいにやさしい服です」と熊谷有記さん。こんなふうに、ほんとうにいい素材と職人の仕事を掘り起こし、デザインしたモノたちがこの店には並ぶ。四国の木材加工所の端材で作ったアクセサリ、京都の帆布会社の端切れを活かした小物類…。対岸に中之島公園を望む空間には、心地よい陽射しとモノづくりへの敬意が満ちている。



Label Shop

空間デザイナーの岩本勝也氏が立ち上げた「レーベルクリエイターズ」の発信拠点。「日本のモノづくり、衣食住」をテーマに、素材を活かしたオリジナルデザインを生んでいる。昨春秋に東京進出。☎06-6366-1161 12:00AM～6:00PM (土曜・祝日1:00PM～7:00PM) 日・月・火曜休



NAKANOSHIMA DESIGN 07

[Label Shop]のオーガニックコットンTシャツ

生地は2枚重ねになっているので肌触りはさらによい。半袖6,930円、七分袖11,025円、長袖12,600円。

「孫の代まで受け継がれるものを」との思いを込めて作られた「graf」のソファはいたってシンプル。家具職人の野沢裕樹さんは、アンティーク家具を扱ってきただけでなく、建築現場での内装や大工仕事の経験をもつだけあって、「デザイン以上に基礎に一番時間をかける」。下地や構造で手を抜くと、見た目にも美しくないうえ、寿命が短くなる。積層合板のなかでも一番厚みのある30ミリを使うのはそんな理由からだ。座ってみると納得できる。安定感と適度な堅さで、心無しか姿勢も楽だ。

NAKANOSHIMA DESIGN 08

[graf]のソファ



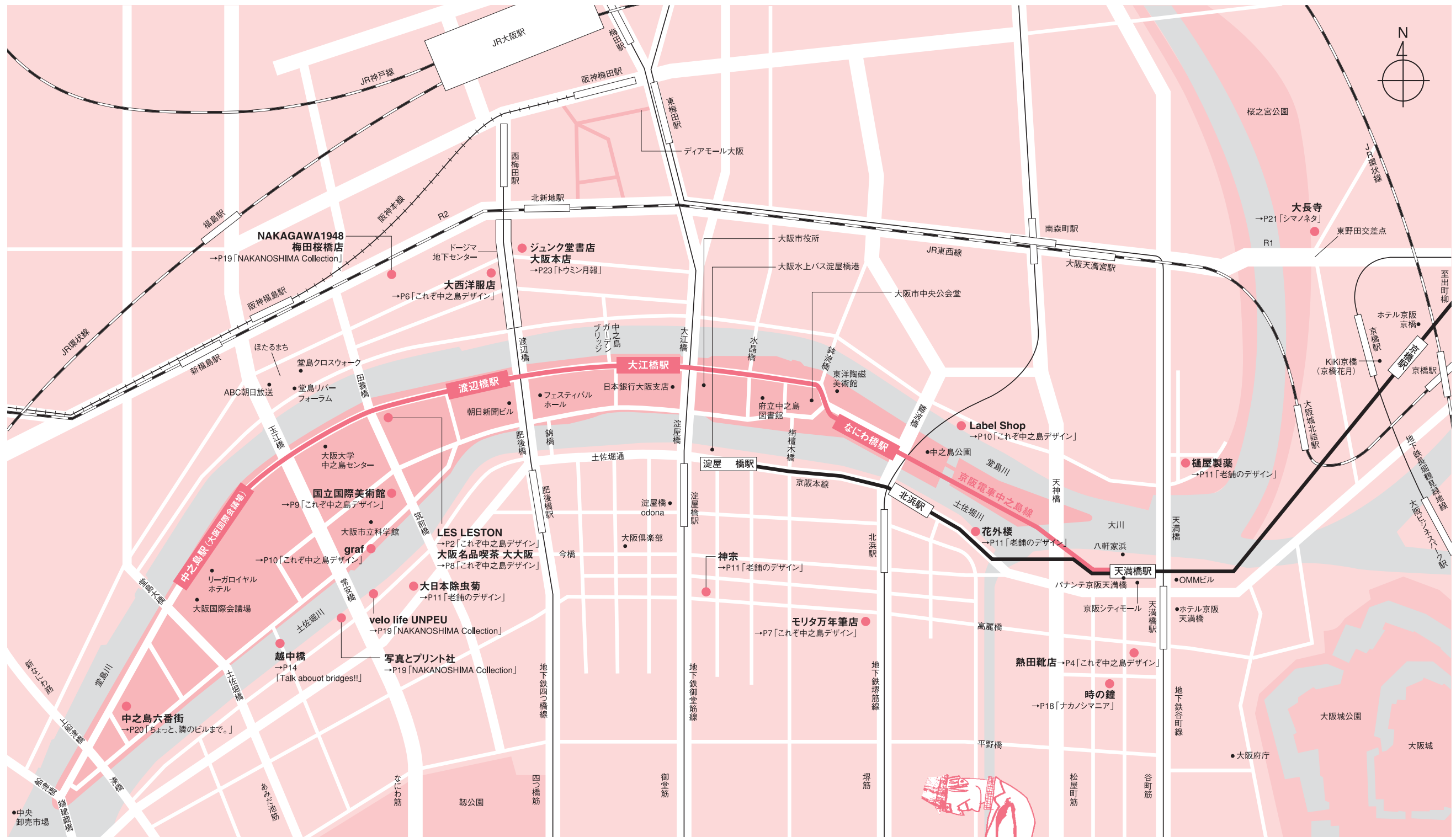
ファブリックは8種類から選べる。修理やメンテナンスも引き受けてくれる一生モノだ。1シート94,500円～。2シート141,750円～。

「膝が少し浮いたほうが滑り落ちないので、ちょっと角度を付けてるんです」。肌触りがいいファブリックに目をやると、どこかで見覚えが…。「それ、スーツ地なんですよ。丈夫だし、擦れた部分も味になっていいんです」。働く島民の癒しにも同志にもなりそうなソファだ。



graf

土佐堀川に面した白いgrafビルには、オリジナル家具以外にも、食器や照明などのショールームとギャラリーが。かわいいもの好き女子に人気が高いが、お昼時は2階のダイニングにスーツ姿も多い。☎06-6459-2100 (ショールーム/ショップ) 12:00AM～8:00PM 月曜休(祝日の場合は翌日)



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!

川と周囲をバキッと隔てる高い堤防。橋を近づき難い存在に見せる一因でもある。

Talk about bridges!!
橋の話をしよう⑧

越中橋

文／ぼむ企画
絵／網本武雄(本誌)

1964年のかさ上げにより、橋の両側に階段が登場。アンチ・バリアフリーで足腰も鍛えられる？

あたりは倉庫街。シンプルな倉庫のデザインが、機能的な橋の風景とマッチ。

歩行者同士すれ違うのがやっとの幅3.8m！
通行人は少ないが、周辺の橋に比べ視点が高くグッド・ビュー。

えっちゅうばし 越中橋

1929年完成。中之島の西部、土佐堀筋から約100m東側の土佐堀川沿いに架かる。1964年にかさ上げが行われ、両岸に階段のついた歩行者専用橋となった。照明灯や高欄のデザインは竣工時とは異なる。全長71.01m。幅3.8m (かさ上げ前は7.5m)。

※1 かさ上げ
川面から橋桁までを高く改造すること。中之島に架かる橋は、地盤沈下などの影響により、竣工後数十年を経てかさ上げされたものが多い。

※2 蔵屋敷
江戸時代に各地の藩が設置した、年貢米や特産品の販売を行う倉庫。水運がよい中之島には数多くの蔵屋敷が存在し、街に活気をもたらしていた。

※3 やつてゐることは変わってない
物流の中継点という意味を持つ現在の倉庫業と、物産品の販売所やこれらを担保とする金銭取引を行っていた蔵屋敷とは本質的には異なる性格を持つ。

※4 堂島大橋
1927年完成。中之島の西端部、あみだ池筋に架かる。日本で唯一現存する非タイド路アーチ橋。鋼アーチと古典的な橋台が対照。第5号参照。

※5 天神橋
1934年完成の鋼アーチ橋。北区天神橋から中之島の東端をかすめ、中央区北浜東をつなぐ。水平に延びる橋桁を繊細な鉄骨の架構が支える。第7号参照。

ぼむきかく たかきみ江、平塚桂の2人による建築ライターユニット「カサ・ブルタス」ほかの雑誌にも執筆。「けんちく家対決」や「けんちく雑誌ガイド」など独断と偏見に満ちたコンテンツの溢れるHPも必見。

桂 今回の歩行者専用の越中橋を紹介します。渡ったことがある方はあまり多くはないはず。この橋を制すれば、真の島民に一步近づけるかも！

み江 バイパス上の歩道的な心細さといいますが、渡るのがはばかられるような独特の存在感がありますね。

桂 階段を何段も上り下りしないといけないし、人通りは少ない。さらに幅もせまくて、距離も長い、と。

み江 実に潔いつくりですね。バリアフリーなんてどこへやら。どうしてこんな橋になったのでしょう。

桂 現在の橋は1929年生まれなんです。1964年にかさ上げされて、幅も約半分の3.8メートルに縮小された歩行者専用橋になったのです。

み江 けつこ古いんですね。

桂 もとをたどれば明暦年間(1655〜8年)の地図にも描かれていた歴史ある橋なんですよ。こう見えて、あるんですよ。

み江 越中橋という名前も当時からあるんでしょうか。

桂 そのころ橋の北詰に蔵屋敷を構えた肥後・細川越中守にちなんで名付けられたと考えられています。

み江 そうなの？ では肥後橋は？

桂 そちらも肥後藩の蔵屋敷が語源らしいですよ。元禄時代に1キロ西に引っ越してきたそうなんです。

み江 中之島23橋のうち、2本が肥後藩絡みか。すごい影響力ですね。

桂 この界隈は大阪の流通拠点で、蔵屋敷がズラリと並ぶ繁華街を形成してにぎやかだったようです。南詰にある三井倉庫も、いわば当時の名残。薩摩藩の蔵屋敷があった場所で、石碑も残っているんです。

み江 このへん倉庫多いですね。

桂 昔はもっと多かったんです。明治時代に蔵屋敷が廃止されてからは、この界隈は倉庫街として発展しました。

み江 持ち主が変わっただけで、やつてゐることは変わってない(笑)。

桂 いまの橋ができた昭和初期の写真を見ると、北詰には三菱倉庫と住友倉庫が並んでいるんです。

み江 そう聞くと豪華ですが、でも結局は倉庫なんですよ。

桂 もうこの頃には地味なビジネス街へと変貌していたようです。いわゆる繁華街ではなくなっていました。

み江 だからこういう素っ気ない佇まいの橋になったのでしょうか。

桂 総工費はたったの九万四千元。ちなみに2年先輩の堂島大橋が五十八万円で、3年後輩の天神橋が百十万円。

み江 なんとストイックな……。

桂 中之島イーストが公会堂でダンスに興じたりとモダン大阪を満喫している隙に、ウエストでは無駄を省いた効率重視の都市開発が進んでいた、と。

み江 それはまた、ずいぶん早すぎる高度経済成長期の到来ですね。

中谷ノボルの **Mr.グッドリバー** を探せ!

ふりがな	しげ た かず み	ふりがな	おおきかしかんきょうきょくかせんじむしょ きのうとうかつしるにん
氏 名	重田 数美 さん		
職 業	大阪市環境局河川事務所 技能統括主任		
経 歴	昭和39年 大阪市東住吉区生まれ。「遊び場は近所の駒川」と幼い頃から川に特別な思いを寄せる 昭和58年 ボートを所有していた親戚のすすめで、高校卒業後、4 級小型船舶免許を取得 一般企業で営業職に就くが、船舶免許の資格を活かす仕事がしたいと退職 昭和59年 大阪市環境局に就職。実は免許を取って初めて操縦したのはこの時		



顔はイカツク、でも心は優しい! 今回のグッドリバーは、川に流れくるゴミを船で清掃する大阪市環境局の職員、重田数美さんだ。作業船を橋の上から見かけたという人もいだろう。現在、市の河川事務所では25名の男衆がこのハードな業務にあたっている。

かなりの専門性が要求される仕事である。特殊船の操船技術はもちろん、船体のメンテナンス知識。そして船上から道具を自在に操ってゴミを捕るテクニックが求められる。「最初は船酔い、次に手首の腱鞘炎、そして腰痛にみんな悩まされます。3 年やって、やっと一人前やね」。この道一筋25年の重田さんはそう話す。

大阪の川にはあらゆるゴミが流れてくる。首都東京の5 倍以上もあるというから、それはいただけない。空き缶やペッ

あのネットコンベア船、ピカピカでしょ。みんなでペンキ塗りましてん(重田)



この船、まるでサンダーバード4号の隊員になった気分ですわ!!(中谷)



トボトルに始まり、テレビや冷蔵庫などの大型家電まで。特に困ったゴ

ミは? 「ソファとベッド。水を含んで重たいねん。引き上げるのに—苦労しますわ」。わざわざ堤防を越えて、そんな大きなモノ捨てんでもええのになあと思う。

こういった難敵と戦うため、重田さんたちは道具をほぼ手作りしている。小物をすくう「玉網」はネットの角度や張り具合にこだわりがある。「剣鳶^{けんとび}」とは、竿の先に金属を取り付けた道具。獲物めがけて刺したり、引っ掛けて捕獲する。事務所の倉庫を見せてもらった。道具の刃は、どれもピカピカに磨かれ、工具類は完璧に整理整頓されている。重田さん曰く、「ええかげんな道具使って、苦労するのは自分やからね」。厳しいプロの言葉だ。

どんなに寒かろうが雨が降ろうが、日々職員は現場に出るという。「正直、キツイ仕事ですよ。でも、市民から『がんばれよ〜』『ありがとう!』って声かけてもらおうと、やってて良かったと思えるんです」。怪我なく、笑顔で、誇りを持って。これがポリシーだ。「水都大阪って言うからには、まず川をきれいにせんとね」。う〜ん、まさにグッドリバーな人。重田さん、あんた男だあ!



なかに・のぼる 住宅リノベーション集団「アートアンドクラフト」代表。「NPO水辺のまち再生プロジェクト」の発起人でもあり、暮らしにも観光にもっと川を利用しようと呼びかける、自らも「グッドリバー」な熱血漢。

●質問その一

この前から友人とあーだこーだ言ってるんですけど…。何をした人かはつきり説明できないけど、知名度高い偉人っているよね、という話です。空海が何をしたか知らない人っていっぱいいるのに、こんなに知名度が高いのはなぜでしょう? 「名前がかっこいいからだって!」と、



自信満々に友達は言い(確にかっこいい)、仏教に詳しい人は密教を持ち込んだからと言います。決定的に「これをしたから有名だ」と、「一般人にも納得できる理由を教えてください。」(女・24歳・書店員)

●解答

空海さんは日本宗教史上屈指のスーパースターです。とにかく、日本中いたるところに、「空海さんが出した湧水」や「空海さんが見つけた温泉」や「空海さんが腰掛けた岩」などの伝説があります。これほど膨大な量の逸話に彩られた人もちよつとめずらしいでしょう。

空海さんは確かに類稀な才能を発揮もった傑僧であり、当時仏教の最先端であった密教を日本に伝えた人です。能筆家としても知られています。でもそれだけじゃなく、やはり、身近に「何か物語がある」から知名度が高いんですよ。つまり、「これをしたから有名だ」と一般人がわかるようではスーパースターとは言えないのです。おっしゃる通り、「何をした

「ちよつと釈せんせに聞いてみようか」

現役ばりばりのお坊さんが島民たちの悩み 疑問にお答え。へ〜仏教って意外と「使える」やん!



●質問その二

仕事があまくいかず身が入らなかったり、プライベートな人間関係でつまずいたり、「なんかうま〜いかなあ」という日々が続いています。人生の調子が悪いとでも言いましょうか、自分の力ではどうこうできないものによって何かを狂わされ、悩まされている気になっていきます。よく先生は「心のコントロール」と言われますが、こんな時はどんなコントロールの仕方がありますか? うまく悩みと付き合う方法があれば知りたいです。そんな都合の良いものは無いかもしれませんが。(男・31歳・広告代理店)

●解答



しやう・てつしゅう 大阪・池田市にある如来寺住職・兵庫大学准教授。先月には、約400年前に世界に先駆け仏教・儒教・道教・神道・キリスト教の「ことごとくを相対化して論じた日本人について記した『不干斎ハビアー』神も仏も棄てた宗教者」(新潮社選書)が発売になったばかり。

担当のO氏によれば、「この質問者は『よくよとネガティブなのはイヤだけれど、過度にポジティブになるのも性に合わない』そうです」とのこと。

うむ、それならポジティブとかネガティブとかとは違う位相のお話をしましょう。それは「捨てる」ことです。以前「おススめの仏教用語」で、一遍上人が仏教を「捨ててこそ」と表現した話を紹介しました。仏教はこだわりや執着心が苦悩を生むと説きます。つまり、執着が強くないためのトレーニングが必要となります。快にも不快にも楽にも苦にも支配されないように、常に捨て続けることで心身を調えるのです。

人かわからないけど、みんな知ってる、「これです!」すごい人ってのは、単純な実績じゃなくて、ナラティブ(語り)続けられる物語 が豊かなのです。有名な人には、必ず魂を揺さぶるナラティブが広い領域に展開しています。そしてそれが連綿と語り継がれていくのです。

●仏教用語の処方箋

三教指帰(さんこうしき)

仏教用語ではなく、空海さんが24歳の時に著した書物のタイトルです。四六駢體の華麗な漢文で書かれた物語仕立ての著作です。三宗教・儒教・道教・仏教 を比較した上で、仏教のすばらしさが述べられています。

例えば、無理すれば何とかできそうな仕事をきっぱり捨てる、ややこしい人間関係を捨てる、自分の所有物を思い切って捨てる、などなど。いろいろと捨ててみましょう。まずは些細なことからでいいです。「捨てていこうという姿勢」をもてば、「うま〜いかなあ」という日常がきつと変わります。

●仏教用語の処方箋

四摂事(ししょうじ)

仏教の理想的精神です。①「慈無量心/ 友愛のように、すべてを慈しむ心」②「悲無量心/ 他者の悲しみを我が悲しみとする心」③「喜無量心/ 他者の喜びを我が喜びとする心」④「捨無量心/ 執着を捨てる心」の四つです。①から③は多くの宗教に共通しますが、④は仏教の大きな特徴だと思います。



大 阪市役所屋上にある「みおつくしの鐘」の存在をご存じの方は多いだろう。成人の目に数十名の、新成人と大阪市長がこの鐘を鳴らすのは毎年ニュースにもなる恒例行事だ。ところで、京阪電車中之島線の始発駅である天満橋にも鐘があるのをご存じだろうか。駅から徒歩5分。オフィスビルやらマンションやらに紛れ、それは突如として現れる。お寺の境内にあるわけでもないこの鐘、名を「時の鐘」という。

歴史は古く寛永11年（16

34）徳川三代將軍家光が大坂下向の際、大坂町中の地子銀（税金）を永久に免除することを約束、これに感謝した町人たちが鑄造したものなのだ。以来、4度の火災をくぐり抜け、230年以上にわたって大阪町人に時刻を告げてきた。しかし明治3年（1870）、時報は大阪城内から打ち出す号砲にとって代わり、その役目を終えることとなる。鐘楼は撤去され、釣鐘は近所の寺などに場所を移し保管されてきた。

そ の後、大正15年（1926）の大阪府庁新築の際に屋上に移設されたが、長らく放置された状態であったという。そこで、地元郷土史家が

発起人となり、市民とともに「時の鐘」里帰り運動が進められ、企業などの協力を得て、昭和60年、115年ぶりに釣鐘町に帰還した。

現在、コンピュター制御で1日3回、朝8時・正午・日没に時を知らせている。毎年6月10日の「時の記念日」には、地元の小学生らも参加するもちつき大会が行われるほか、大晦日には、除夜の鐘打ちも行う。毎年多くの人が詰めかけ、地元保存会がふるまう年越しそばは600食がすぐになくなるそう。

ちなみに保存会の名誉顧問には歴代府知事の名がズラリ。ということは橋下徹知事も名誉顧問なんですか？「橋下さんは忙しそうやからまだやけど、ゆくゆくはお願ひするつもり。府の文化財やから」と保存会会長の山田さん。そう、この「時の鐘」は、現在43件ある大阪府の有形文化財工芸品の第1号なのだ。鑄造されてから今年で375年。「ゴーン、ゴーン」と鈍く響くその鐘の音色には、大阪の歴史を見守ってきた重みがあるようにも聞こえる。



保存会会長の山田氏。14年間、会長としてこの鐘を見守っている。「史跡めぐりでこの鐘を見に来る人も多いよ」。

375年の時をかける「鐘」があった。



昭和60年には釣鐘の帰還を記念し新たな鐘楼も建設された。5つの輪が重なる屋根のデザインは、自主・自立・自由・活力・創造という大阪町人の精神を表現している。現在この地は釣鐘町と呼ばれるが、その町名はこの鐘があることに由来する。

今月のテーマ【帽子】

お洒落は足下からと言われるが、お洒落な島民は頭の上にもきちんと気を配っているのだ！

取材・文／溝口さやか（本誌）



審査員／大平秀峰さん
[NAKAGAWA1948 梅田桜橋店] 店長

老舗らしい風格と肩の力が抜けるフレンドリーさを兼ね備えたテラーにて、絶妙な採寸テクニックを誇る“ゴッドハンド”として知られる。今回は帽子がテーマということで、テイ・トウワ風コスプレでご登場。[NAKAGAWA] と言えば淀屋橋WESTにも店舗があり、島民にもおなじみ。☎06-6348-5200

アート&クラフト 末村 巧さん(44)

スーツを作った余り布で、ついでのこの帽子も作ってもらったんです。内側は別の布を合わせてもらったんですけど、アニマル柄みたいになって。普段はキャップも多いんです。帽子とは野球少年からの付き合いですから。



いわゆる、我々のギョーカイで言う“イタカジ”ですね。毛皮をあしらった帽子だけでなく、袖の切り返しのレザーやジーンズのステッチなどのディテールが効いています。ただ、帽子で遊ぶなら、靴はスニーカーなど軽めのものの方がいいかもしれませんね。

「テーマは『ノッポさん』です」



アンブ velo life UNPEU 小林宏治さん(36)

自転車に乗るとき、帽子をかぶっていると守られている感じがする。ヘルメットとまではいきませんけど。うちの自転車は小径やからニット帽がちょうどいいかも。毎日被っているので、忘れてしまうと寂しいですね。



ジャック・ニコルソンの若い頃の『カッコーの巣の上で』を思い出しますね。アメカジの良さが出ています。自転車屋さんですのでもっと汚れたりすることもあるでしょうが、それも味になるという意味で、お仕事とファッションがとてもマッチしていますよ。



「世界に1つ、ハギレのコラボです」

写真とプリント社 小倉優司さん(31)

帽子を変えるだけで気分も変わるし、違う自分になれるのが楽しい。今日はカジュアルなノッポさんというところかな？ スナフキンという声もありますけど…。いつか自分でデザインして手作りしてみたいなあ。



僕には絶対にできない爽やかさやなあ。少しウオッシュのかかった茶色の帽子が、モノトーンでまとめた中に良いアクセントとして効いています。あえてやってる感じがニクいですね。帽子はメガネとも相性が良く、お顔が軽く見えない効果もあるんです。



「365日一緒。相棒みたいなもんです」



あつぱれ！

「鰻なんか被ってるの俺だけやろな(笑)」

画家 河内英男さん(70)

鎌倉の美術館に行ったとき近くの店で買うてん。「ええなあ」と思ったら何と鰻の皮！ お店の職人さんがさばいて、なめしたらいいけど、何匹くらい使こてんやろ？ よく公会堂を描きに行くけど、その時も一緒やね。



ウナギを使った帽子と聞いて、一瞬「さかなくん」を想像してしまっただけですが、これは失礼しました。細かいコーディネートではない、「サマ」になっています。ウナギとは珍しいですが、それも「ウナギだから」ではなく、単純にピンと来たから買ったのでしょうね。ポリエチレンかと思いきや、そんなポイントがあるんだから一本とられた、という感じです。



ちよと、隣のビルまで。

取材・文／松本 創（本誌）

第8回

[中之島六番街]@中之島センタービル

昭和の高層ビルの地下に息づく“人間交差点”。

阪急梅田が三番街、N Yが五番街なら、中之島には六番街がある。シマの西端、6丁目にそびえる中之島センタービルの地下商店街。昭和50年の竣工当時、関西一の高さを誇ったビルは、いまや大阪市内53位となり、地下にも空き店舗が目立ってきたが、それでも昼時になれば、食堂に並ぶ人、書店をのぞく人、マッサージや散髪に来る人…いろんな顔が行き交う“人間交差点”となる。

カウンターだけの喫茶店「TRY」の横田恭江さんは、34年前からここに立つ六番街の最古参。「昔このあたりは倉庫街で、店も何もなかったから、それは賑やかだね」と目を細める。8席のカウンターは常に満席、上階で会議でもあれば100杯もの出前注文が舞い込んだという。

一緒に店を始めたご主人が数年前に亡くなり、一度は閉店も頭をよぎったが、「定年や転勤でビルを離れた常連さんが『ああ、元気でやってたんや』と、時々来てくださるのがうれしくて…」。

フードショップ「紅」も、ビル開業当初から続く店。進物用のお菓子が店頭を飾るのは、出張の手土産をここで買う人が多かったから。「街にコンビニができて人の流れがずいぶん変わったわね」というが、330円の格安日替わり弁当は、毎日あっという間に売り切れるビル内屈指の人気ランチだ。

関西経済の昭和の繁栄を映すビルの地下街は、少しくたびれてきたけれど、まだまだ現役なのである。



【紅】の日替わり弁当はカツやフライ、焼き魚など毎日5種類。店頭で人気ユニットEGO-WRAPPIN'をプッシュしているのはナゼ？と尋ねたら、ご店主の甥っ子がメンバーなんだそう。



六番街のいちばん奥にある「TRY」。横田さんはビル完成前の昭和37年からOLとしてこの界隈で働き、中之島の変遷を見つめてきた。



食堂、そばや中華の店、喫茶のほか、宝飾・靴・理髪店など、ビジネスマンの身だしなみをサポートする店も。かつては毛皮を売る店もあったとか。

中之島六番街

旧電電公社の通信局跡に建つ中之島センタービルは、関西経済連合会や関電の関連企業が多数入居する関西経済の拠点。中之島六番街は土・日・祝休。現在空き店舗あり。問い合わせは大阪地区開発営業部 ☎06-6448-1616まで。

上方講談師・旭堂南海の
シマノネタ 第六回

大川のお化け鯉

「大川のお化け鯉」は宮本輝の『泥の河』に有名だが、その伝説は古来、大川にあり、講談でも演じられる。概略はこうだ。

時は江戸時代の前半。網島の川漁師たちは毎日大川に船を出し、川魚を捕っては京橋の市へ卸していた。でも、桜の宮回りへは決して網を入れなかった。そこには大川の魍魎が棲んでおり、もし、網を入れようものなら、一瞬にして漁夫は水中に引き込まれ、命を落としてしまう。現に何人もが犠牲になっていた。そんな中、網島の漁師に嘉右衛門という親爺がいた。いたって気のやさしい男。いつも仲間から下に見られていた。十二歳になる嘉右衛門の息子音吉は、そんな漁夫たちが許せない。子供ながらに決意した。「よし、ならば、大人の誰もが恐くて行けない、桜の宮の漁場へ行き、魍魎を捕らえて見返してやる」。

嵐の夜に船を漕ぎ出す桜の宮。網を入れ、命がけの格闘の末、とうとう魍魎を引き上げた。すでに雨は止み、明け方近く。音吉が見れば、七尺もある大きな鯉。しかも、頭はまるで兜を被ったような模様が付き、鱗には巴の紋



大長寺には「鯉塚」と並んで「誰が袖音吉」のものといわれるお墓がある。

が入っている。岸に戻ると「親爺っ、魍魎、捕ったでっ!」。嘉右衛門は腰を抜かす。ニッコリ笑う音吉。ところへ、漁夫たちがぞろぞろやってくる。音吉はお化け鯉を見せながら叫んだ。「お前ら、普段、威張ってくさるが、誰もこの魍魎捕ることできんかった。それをこのワイが捕ったんじやいっ! ええか、これからワイの親爺を見下げやがったら、このワイが許さんからなっ!」

年は若い、音吉は漁夫たちの親方となり、弱気を助け強さを挫く、浪花の俠客、人呼んで「誰が袖音吉」と崇められるようになったのであります。

（講談本『誰が袖音吉』新聞亭柳玉講演 明治29年刊より抜粋）

トウニン月報

2009年3月1日発行

島の「ええところ」を
自慢せよ



中之島を歩いていて、ふとした
光景に驚いたことが島民誰しもあ
るだろう。おなじみの中央公会堂
はもちろん、川面にオフィスビル
の灯りが浮かぶ夜景や、高速道路

と橋のシニールなミスマッチなど、
メジャーからマイナーまで見ご
ろはたっぷりある。
そんな街の「ええところ」、それも
「かくれた」部分を自慢し合うとい
うコンクールがある。日本建築協
会が主催するおおさか「かくれた
ええところ」再発見コンクールでは、
大阪市内を対象に、自分が「これ
はオモロい！」と思った風景の写
真を募集。普段見過ごされがちな
街の魅力を発掘し、街づくりに
役立てようというもので、となる

と、知られざる絶景があちらこ
らに潜む中之島にはびつたりの企
画と言えるかもしれない。

何をもって「素晴らしい」とす
るのかは人それぞれ。注意力を敏
感にして、いつも見ているようで
見えていなかった風景を探してみ
よう。（大迫 力・本誌）

ミーツ生まれの
単行本フェア開催！

『ミーツ』と言えば、京阪神の街
の時代感覚を切り取ってきたリ
ジョナル誌。本誌と併読している
読者も多いことだろう（というか、
うちの方が後ですが）。名店紹介と
並ぶ、同誌のもう一つの顔と言え
ば、あっと驚く豪華なコラム執筆
陣である。内田樹、鷺田清一、富
岡多恵子、永江朗、ひさうちみち
お：そうそうたる顔ぶれとはまさ
にこのことである。

そんなミーツも今年で創刊20周
年。記念イベントの一環として「ミ
ーツ生まれの本たち」が一堂に会
するフェアが開催される。目玉は
元編集長であり（本誌の編集・発
行人でもある）、ミーツへの連載を
まとめた著書『街場の大阪論』を



『街場の大阪論』
江 弘毅（バジリコ/1,470円）ミーツでの
連載と、バジリコのウェブサイトでの連載
をまとめたもの。島民も気になる北新地
論も収録。3月4日発売！

会場／ジュンク堂書店大坂本店
3階喫茶コーナー
日時／3月13日（金）6:30PM～（約90分）
参加方法／同店のレジカウンターにてお
申し込みを。先着50名。
入場料／500円
問い合わせ／☎06-4799-1090

んだかちよつと恐縮気味ではあり
ましたが、1ヶ月間の大役を無事
に務めさせていただきました。来
店して下さった皆様、そして夢
の「島コラボ」にええ感じでノッ
てくれた「ジュンク堂」の皆様も
どうもありがとうございます。
（大迫 力・本誌）



中之島関連の本の特集だった先
月号にちなみ、「ジュンク堂書店大
阪本店」にて開催された「月刊島
民フェア」。「ちくま文庫」と「チ
ェ・ゲバラ」のフェアに挟まれる
という榮譽（？）にも恵まれ、な

わたしと『月刊島民』
大阪商工会議所 中小企業振興部 斎藤由佳さん



創刊号から面白く読んでいます。中之島だ
けの雑誌なんて今までにありませんでしたよね。
自分の部署にはバックナンバーも揃えている
のですが、このラックは私が手づくりしたん
です。中之島にある病院に通っている母親に、
見せたら、気に入ってくれて、
通院には京阪電車の中の島線を使うようになりました。
私も『島民』を持って、友人とあちこち歩いたりしま
したよ。これからは美術館
や博物館など、パブリック
な施設の特集なんかでもして
もらえたら嬉しいですよ！



次号予告

中之島へいらいしやい！

これまで『島民』がお伝えしてきたとおり、
中之島は単なるビジネス街でも、
公共施設が集まるだけの場所ではない。
お客さんと呼べる「観光地」でもあるはずだ。
接待にも役立つ、島民的観光案内。

●『月刊島民』vol.9は2009年4月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅（編集集団140B）
編集・発行人／月刊島民プレス
若狭健作 網本武雄
（株式会社 地域環境計画研究所）
松本 創 大迫 力（編集集団140B）
〒530-6591
大阪市北区中之島3-6-32 タイビル140B
Tel.06-6445-2105 Fax.06-6445-2106
制作進行／堀西 賢（ALEGRESOL）
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

配布にご協力いただける方を
募集しております！

京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モ
ール／デリスト天満橋店／ホテル京阪天満橋
／ホテル京阪京橋／ブックファースト梅田店
／旭屋書店 本店／旭屋書店 梅田地下街店
／旭屋書店 堂島地下街店／ジュンク堂書店 大
阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ
店／リプロ 梅田阪神店／ブックファースト
淀屋橋店／文教堂書店 淀屋橋店／福家書店
淀屋橋店／天牛堀書店 大江橋店／紀伊國屋書
店 本町店／ジュンク堂書店 天満橋店／アバ
ンティBC OMMビル店／紀伊國屋書店 京橋
店／大阪市中央公会堂／府立中之島図書館／
専門学校中の島美術学院／朝日カルチャーセ
ンター／大阪大学中之島センター／慶應大阪
リバーサイドキャンパス／大阪倶楽部／芝川
ビル／大阪国際会議場／市立住まい情報セン
ター／大阪商工会議所／大阪企業家ミュージ
アム／大阪市立中央図書館／宗是そば／喫茶
大大阪／ネイルサロンスワンナ／吉田理容所
／たまたが鍼灸整骨院／ABC朝日放送
／MANGUEIRA／TOSABORI SANDWICH
BAR／Girond's JR／じろう亭／ミニジロー
／黒門かえ／BAR THE TIME 天神／N4タ
ワー マンションパビリオン／ホテルNCB
／MJB珈琲／上町貸自転車／ザ・メロディ
／なんば書店カルチャーコーナー その他、取
材協力先



はっ、と魅せられて。
ほっ、と和まされて。

森小路けい子 音大生
金竹堂

祇園四条、舞い心地

憧れに誘われて、舞妓さん好みの華やぎにふれる、この街・祇園へ。京阪電車に乗って。

井づ津屋

ポーチの上には可愛い刺繍の舞妓さん。オリジナルの「花舞妓」模様をあしらった小物が、乙女心をくすぐります。
TEL.075-551-3311



幾岡屋

舞妓さんが使う「花名刺」を、お好みの絵柄で自分用につくれます。職人さん手刷りの本格的な仕上がり感激。
TEL.075-561-8087



金竹堂

舞妓さんの黒髪を彩る花かんざしの老舗。職人さんが丹精こめた、芸術的な美しさに、思わずため息がもれます。
TEL.075-561-7868



京都祇園 秋月

のり振煎、醤油煎、黒ごま煎、えび煎…4種の香ばしさを楽しめる「祇園煎」は、美しく京らしい包みも素敵です。
TEL.075-561-6000



するがや祇園下里

つやつやの餡に煎り大豆がたっぷり入った「祇園豆平糖」。上品な甘さと大豆の香りが、お口にふわたひろがります。
TEL.075-561-1960



祇をん萬屋

厳選した九条ねぎを使う名物「ねぎうどん」は、ねぎとおダシ、生姜の相性がぴったり。身体もほっと温まりそう。
TEL.075-551-3409



祇園小石

お稽古帰りの舞妓さんのお目当ては、店内にある「茶房」。ふわふわの「抹茶ミルクカプチーノ」など甘味いろいろ。
TEL.075-531-0331



◎ いずれも京阪電車祇園四条駅下車



おけいはん
の
人、

おけいはん

検索

www.okeihan.net